

58 史料としてのオランダの

「解剖学講義」の画

石田純郎

オランダには、解剖学講義に関する画が、演者が管見した範囲内でも、二〇枚余残されている。画として秀逸なレンブラント画の「チュルプ博士の解剖学講義」を中心とした、古川明氏と藤田尚男氏の秀れた先行研究はあるものの、オランダの解剖学講義の画を、医学史料として系統的に解説した研究はないようである。

オランダの解剖学講義の画は、四種類に分類される。

第一群は、ライデン大学の解剖講堂の画で、五枚存在する。銅版画・エッチングの一六一〇年代に描かれた画(四枚)と、一七六九年に描かれた画(一枚)である。第二群は、アムステルダム外科医ギルドの集団肖像画で、一六〇三年から一七五八年までの間に描かれた一〇枚が存在する。第三群は、デルフトの「旧新病院」での解剖学講

義の画で、一六一七年から一七二七年までの間に描かれた三枚が存在する。その他の雑多な画が第四群で、三枚が存在する。

本日は時間の都合上、第二群のアムステルダムの外科医ギルドの集団肖像画についてだけ検討する。一七世紀のオランダは、「黄金の世紀」と呼ばれ、文化が華咲いた。絵画の分野も例外ではなく、多彩・多数の画が描かれた。現在の記念写真と同様な意味を持つ、オランダ独特の「集団肖像画」がしきりに描かれたが、これは三種類に分類される。まず「民警画」、次いで「レヘント(管理職)画」、そして「解剖学講義画」である。

アムステルダムには、一五五〇年に解剖講堂が置かれた。最初は聖ピータース病院の中に置かれ、一六九一年に計量館(Waag、外科医ギルドの集会室も隣に置かれた)の中に移転した。アムステルダムの外科医ギルドは、「解剖学講義画」を画家に描かせた。「解剖学講義」の画は、アムステルダム外科医ギルドで行なわれていた、内科医によるギルド外科医およびその徒弟を対象とした、いわば解剖学講義の記念写真である。一五八七年に、外科医

およびその徒弟を対象に、内科医を講師として、解剖学講義が開始された。一五八七年から外科医のギルドが解散された一八世紀末までに、八人の内科医である解剖学講師が、解剖学講義を行なった。解剖学講師は、大学でMDを取得して卒業した、その町の開業内科医であり、彼らは「教授」と呼ばれることもあった。描かれた集団肖像画「解剖学講義」の聴衆は、外科医ギルドの役員たちである。解剖学講義画以外に、外科医ギルドの役員たちからなる集団肖像画、「レヘント(管理職)画」も残されている(一六八〇年から一七四四年までの五枚)。

解剖学講師は、初代がコストル(M. J. Coster、一五八七—九二在任、この講師のみ、画が残されていない)、二代がエグベルツ(S. Egbertsz、一五九五—一六二二在任、一六〇三画、および一六一九画)、三代がフォンテイン(J. Fontein、一六二二—二八在任、一六二五画)、四代がチュルプ(N. P. Tulp、一六二八—五三在任、一六三三画)、五代がデイマン(J. Deyman、一六五三—六六在任、一六五六画)、六代がルインツ(F. Ruysch、一六六六—一七三二在任、一六七〇画、および一六八三画)、七代がロエル(W. Röel、一七三二—?

在任、一七二八画、画は解剖学講師の助手時代のもの)、八代がカムベル(P. Camper、一七五五—?在任、一七五八画)である。平均して一人の解剖学講師に、一枚強の「解剖学講義」が描かれた。これらの講師の中には、有名なチュルプ博士より傑出した人物が何人かいる。すべての解剖学講師と画家の履歴は判明している。当日は、各「解剖学講義」の画を供覧する予定である。

(公立新見女子短期大学)